

#水辺のある暮らし

#このまちが好き

#いたこ推し

潮来の魅力再発見

潮来をもっと好きになる。この特集では、潮来の「ヒト」「モノ」「コト」にスポットを当て、地域の魅力を発信していきます。

VOL.1



東京都世田谷区出身。4人家族で潮来市へ移住。現在は都内企業で経営コンサルタントとして働く傍ら、非営利団体「一般社団法人いたこミズベデザイン」の代表として地域活動に取り組む。

潮来市在住
横地 綾人さん
(よち あやと)

潮来の水辺を活かした アクティビティ「SUP」

あやめ園や県民の森で開催されるイベントでは、近年注目を集めている水辺のアクティビティ「SUP（スタンドアップパドルボード）」の体験会が開催されています。SUPはハワイ発祥のスポーツで、サーフボードよりやや大きなボードに立ち、パドルを使って水面を進みます。

地元でも関心が高まり、初めて体験した方は「落ちないかな？」と不安を口にしながらも、終始笑顔で楽しむ姿が見られました。

このSUP体験をはじめ、水辺を活かしたさまざまな活動を行っているのが一般社団法人いたこミズベデザインです。潮来市および周辺地域



の水辺を活用したアクティビティやコミュニティづくりを通して、まちの魅力を再発見し、地域の活性化に取り組んでいます。

今回は同法人の代表であり、潮来市に移住された横地綾人さんにお話を伺いました。

なぜ潮来に？

「最初に就職したのは鹿嶋市の会社でした。その後結婚し、私は東京の会社に転職しました。そして住む場所を改めて考えることにしたんです。」田舎で暮らしたいという思いがあり、心身のリフレッシュとワークライフバランスの取れた暮らしを望んでいました。子どもたちにも自然の中で育ってほしい。そうした想いを叶えられ、夫婦それぞれのキャリアも大切にできる場所、それが潮来だったといいます。

移住前には「お試し移住」も経験し、東京への通勤が可能かどうかを確認しました。「潮来バスターミナルから高速バスで通勤できるので、思っていた以上に便利でした。通勤中も座れて移動時間を仕事にあてることもできます。実際、移住後の方が仕事の成果も上がっており、心身のリフレッシュが良い影響を与えていると思います。」

潮来市の魅力は？

「移住してよかったのは、自然がすぐそばにあるところですね。渡り鳥がふと目に入ったり、季節の変化を感じられるのがいいと思います。広い空や平らな土地、水辺の景色も落ち着きます。自然が近いおかげで、普段の生活がちよっと豊かに感じられます。」

地域に根差した活動について

「私にとって、東京に出勤して寝に帰るだけの生活では、潮来に住んでいる実感が薄く淋しく感じました。せつかく自然豊かなこの地に住むのだから、潮来の豊かな地域資源を活かした活動を通じて、地域に根差した暮らしをしたいと思いました。」

「水郷のまちなみや水辺の自然環境は、この地域ならではの資源です。地域の皆さんもとてもフレンドリーで温かく受け入れてくれたこともあり、SUPなどの水辺のアクティビティをはじめることができました。」

今後の展望は？

「ミズベデザインは「潮来の日常に水辺を」というビジョンを大切にし、SUP事業のほか、イベント「ミズベデザインカンパニー」「ミズベシアター」の開催、コミュニティスペース「ネオ図書館」(潮来662-1)運営など水辺で楽し

む企画に取り組んでいます。水辺に人が自然と集まり、語り合い、笑顔が行き交うようなにぎわいのある風景をつくることで、地域のつながりが育まれ、その中で子どもたちが地元の魅力に触れ、少しずつ「このまちが好き」と思ってくれるようなきっかけになればと願っています。



コミュニティスペース ネオ図書館(潮来市潮来662-1)

「#いたこ推し」

ヒト・モノ・コトを通じて潮来市の魅力をこれからも発信してまいります。広報特集へのご協力や情報提供お待ちしております。

お問合せ先 潮来市情報戦略室
✉ hashin@city.itako.lg.jp